

地中熱利用

2月27日、EUI九州主催のシンポジウムで九州大学準教授、藤井光先生の「地中熱利用による省エネルギーの可能性」の講演をお聞きしました。今回は地中熱利用といっても、発電以外での利用方法という事です。

深さ10Mくらいの地温は、地上の温度変化に関わりなく、その地域の平均気温と同じです。(四国、九州で20℃ 東京で17℃) 年間を通して温度の変化がない為、外気温との差を利用して効率の良い冷暖房等を行うことができるのだそうです。

まず、深さ50~100Mの井戸を掘り、U字型パイプを通し、その中に水や不凍液を循環させます。冬場は地中からくみ上げた熱をヒートポンプで昇温させ、暖房や融雪に使います。夏場は逆に地中を放熱先として使います。ヒートポンプと組み合わせる事で、格段に省エネ効果が高くなります。また、エアコンのような放熱用室外機がないので、稼働時の騒音が少なくヒートアイランド現象抑制の効果が期待できます。

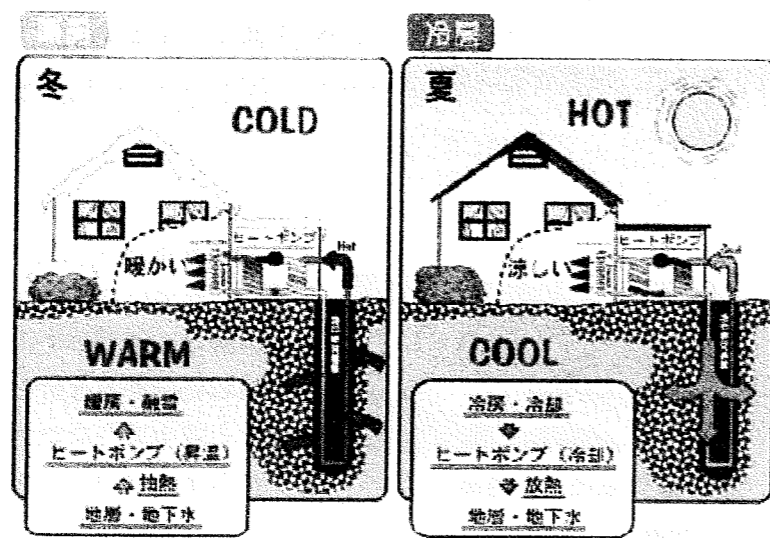
私たち日本人には、あまり馴染みのない地中熱利用ですが、海外では1980年代から普及し始め、米国や、近年は特に中国での普及が進んでいます。スウェーデンでは30%以上の家庭に設置されているそうです。国内では、農業用ビニールハウスや羽田空港国際線ターミナル、春オープン東京スカイツリーやIKEA福岡新宿店など商業施設に導入されています。今後は24時間空調管理が必要な介護施設や病院などへの導入が期待されます。

しかし家庭への普及は進んでいません。その要因として、欧米と比べ地質が複雑な為、井戸の掘削コストが高い事と、認知度が低い事、普及の為の助成制度が整備されていない事などがあります。パイプを設置する広い敷地も必要です。

地中熱は日本中のどこでも利用が可能です。今後技術開発が進んで、土地が狭い場所でも安価に設置できるようになる事を期待します。そして省エネが叫ばれている昨今、自然エネルギー活用の選択肢の1つとなればと思います。

【参考】 経産省資源エネルギー庁 <http://www.enecho.meti.go.jp/saiene/renewable/underground/index.html>
地中熱利用促進協議会 <http://www.geohpaj.org/>

<Yち>



出典:地中熱利用促進協会HP

ススめ! 松林保全



本年度も、通年全9回に渡る福津市環境リーダー養成講座が無事終了しました。今回は、唐津の虹の松原で実際に松林保全活動をしている田中先生に、松林保全の理論と実際(4回)を教えていただいたあとに、活動の広げ方(4回)を担当し、最後にコラボレーション講座という構成でした。この環境リーダー養成講座は、干潟保全に始まり、里地里山、川、そして今年度の松林で、予定の自然環境のフィールドが一巡しました。私も企画に加わることで、自然環境保全についての基礎知識を楽しく身につけることができ、ありがたく思っています。

ところで、新宮、古賀、福津の海岸線に連なる松林は、全長10kmにも及び、住宅松林では国内最長だということをご存じでしょうか。ただ、その松林は危機に瀕しています。「白砂青松」という言葉の通り、海岸に松林を形成するには、その地が「白砂」であることが必要です。人の手が入らなくなり、松葉が積もってしまうと、広葉樹が入り込み、松を退化させてしまいます。かつては松葉や松ぼっくりは風呂や調理の燃料として必需品でしたが、それがガスや電気にとって代わったことが、松林の荒廃を生んだのだそうです。つまり、人の継続的関わりなしに、白砂青松は成り立たないのです。

▼共生関係の菌根菌に感染した松を植えました



▲福津市渡の海岸
<http://www.its-mo.com/>

そこで、エコけんでは、「1%クラブ」の活動に、この松林保全のお手伝いを入れることにしました。地域に海岸を含むところでは、それぞれに松林保全活動が展開されているとお聞きしました。エコけんでは、今回の講座でご縁のできた、花見松林に可能な範囲でお手伝いに行くことにしました。松葉かき等、人手が多いほど保全のための作業は進みます。猫の手レベルかもしれませんが、まずは私たちが、がんばってきます。

松林清掃活動参加日

4/28 (土) 9:00~ 1時間程度

<< S >>

次回のエコけん1%クラブ



4月13日(金) 14:30~1時間程度

エコの森近隣 ごみ拾い



3月18日(日)“メガかえっこバザール～eこどもまつり～”、無事、終了しました。集客を心配しましたが、地元の古賀市、福津市、新宮町はもちろん、遠くは唐津市、宮若市、飯塚市などからの参加もあり、来場者は約310人にのびりました。ほとんどの来場者が最後のかえっこオークションまで滞在されたようで大盛況でした。満足した顔で帰って行った子どもたちの顔が何よりの喜びです。

やはり、かえっこの人気は根強いです。使わなくなったおもちゃが活かされ、ポイントでおもちゃが手に入るとあり、保護者も協力的です。

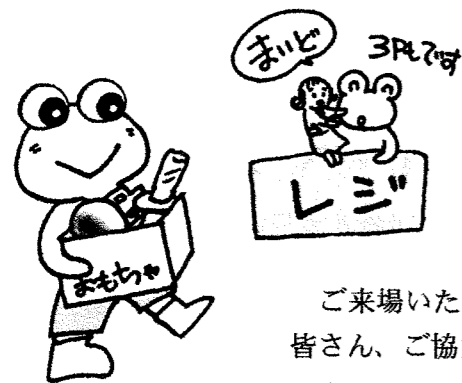
今回のメガかえっこバザールの特徴は、近隣の環境団体の協力を得たことでした。7団体の出展協力を得て、クイズや分別体験、アサリストラップ作り、押し花シール作り、キャンドルグラス飾り、古布でくるみボタン作り、紙鉄砲あそびなどの体験ブースを提供してもらいました。それぞれのブースは子どもたちで大賑わいでした。多少なりとも、子どもたちやその保護者が環境に興味を持ち、考える機会となったのではないのでしょうか。



また、地球くんの「温暖化ストップのための暮らし環境講座」に子どもたちは真剣に耳を傾けていました。その他、巧みな話術の「上西郷幼稚園園長先生のマジックショー」や「ジャンボ環境かるたとり」、地球温暖化防止活動推進センターのマスコット「エコトン」も人気がありました。一方、大人の方にも楽しんでもらおうと準備した保護者向けコーナーは、利用が少なく課題も残りました。

4ヶ月前より5人のプロジェクトチームを作って、後援や協賛のお願いにあちこち回ったり、協力団体との調整、会場や駐車場の確認、広報などの準備を重ねてきました。これまでのエコロまつり企画・運営経験が大いに役立ち効率よく動くことができました。楽しみながら学べる場を提供していきたいと思います。

ご来場いただいた会員の皆さん、後援自治体・協賛企業・出展団体の皆さん、ご協力ありがとうございました。

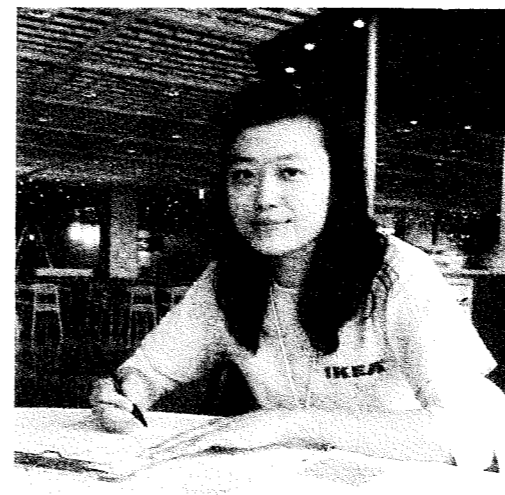


- 【出展環境団体】 PO法人アートもん NPO法人ふくおか湿地保全研究会 恋の浦ウミガメの会
古賀市緑のまちづくりの会 古賀市ほたるの会 古賀市EM普及の会 Singu子育てNAVI
【協賛企業】 (株)フランソア 八仙閣古賀店 西日本シティ銀行古賀支店 ニビシ醤油(株)
山崎製パン(株) イナバフォトスタジオ SIERRA LAXZE 石田レディースクリニック
ブループラネット英会話スクール
【後援】 古賀市 福津市 新宮町 古賀市教育委員会 福津市教育委員会
新宮町教育委員会 古賀清掃工場
エコーブ環境助成金事業

※詳しくはエコけんホームページをご覧ください <Ms. W>

IKEA福岡新宮サステナビリティコーディネーターの笠井さんに話を伺ってきました。4月11日のオープンに向けて、既に多数の従業員の方が忙しく働かれています中、2階の700人収容できるというレストランでインタビューしました。

笠井さんの仕事は、イケアのサステナビリティの理念にある「経済」、「社会」、「環境」の3つの持続可能性を求めて、様々な部署と連携して、消費者や従業員に向けて情報発信することだそうです。現在は、イケアの環境問題に関して、ストアの利用者やスタッフが出すごみを分別してプラスチックをCPF (cube plastic fuel) 処理するためのシステム作り等、他部局と一丸となって取り組まれているそうです。



Q. 未来のために、今、何が重要だとお考えですか？

環境に配慮した企業であること。IKEA福岡新宮は、地中熱や氷蓄熱式ヒートポンプを利用した空調設備、雨水タンクやスカイハッチ(灯りとり)を設置している。また、太陽光パネル設置も予定している。

Q. そのために心がけておられることは？

流行に感わされないで、本当に必要なものだけを買う。歩いて通勤。資源ごみを自宅でも家族と一緒に分別する。

Q. 未来を創るための決意

環境にやさしい買い物ができる
お店づくりを。

昨年、東京から戻ってこられた笠井さんは、新宮町が資源ごみを分別する町として先進の町と感じているそうです。

イケア創業の地であるスウェーデンでは、家庭での生活をとりわけ大切にしているそうです。そこで、イケアではデザイン性と機能性を備えた商品をお手軽な価格で提供すること。加えて今回お話を伺ったことで、生産から廃棄に至るまで、環境に配慮した展開をされていることがわかりました。イケアの出店を機に、遠い北欧の国が急に身近になりそうです。

<Ms. W>

思いを形に

特定非営利活動法人 エコけん

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13

【TEL/FAX】 092-944-6450 【E-mail】 eco_ecoken@ybb.ne.jp 【URL】 http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken